ICHIKAWA LIBRARY

# 新・参考業務月報

2018年 2・3月号

発行：市川市中央図書館　編集：ﾚﾌｧﾚﾝｽｶｳﾝﾀｰ　〒272-0015　市川市鬼高１－１－４　℡．047-320-3333

| | INF | REF | こども | 電話 | ﾒｰﾙ | 中央計 | 行徳 | BM | 南行 | 信篤 | 平田 | 駅南 | 全館計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2月 | 1,055 | 764 | 679 | 34 | 0 | 2,532 | 977 | 29 | 172 | 250 | 129 | 1,235 | 5,324 |
| 3月 | 1,199 | 796 | 759 | 90 | 2 | 2,754 | 1,035 | 28 | 194 | 262 | 134 | 1,050 | 8,303 |
| 累計 | 14,398 | 9,839 | 10,468 | 561 | 19 | 35,193 | 11,167 | 394 | 2,153 | 3,137 | 1,708 | 13,792 | 102,829 |

INF：ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ・ｶｳﾝﾀ　REF：ﾚﾌｧﾚﾝｽ・ｶｳﾝﾀ　BM：自動車図書館

## 今月のレファレンス記録票から

| 分類 | 質問と内容 |
|---|---|

**Ｉ/C0**　万葉集に「葛飾の真間の入江」とあるが、昔、市川のあたりが海だったことを資料で確認したい。

『市川風土記』（市川ジャーナル社　1973）1 章「市川の生いたち」p. 7-26 の中で地形の変遷についての説明や「クジラが泳いでいた頃（縄文時代）の市川」p. 21、「手児奈の伝説が広まった頃（奈良時代）の市川」p. 23 の図がある。同様のことが『市川　市民読本　改訂版』（市川市教育委員会　1979）1・2 章でも詳しく述べられている。

その他『市川の自然』（市立市川自然博物館　1989）p. 12-17 に市川の大地の成り立ちが簡単な図と文章で紹介されている。また、『発見　市川の自然』（市川市　2006）p. 102-113 で地形分類図や関東地方の海岸線の変化などがわかる。

**Ｉ/X3**　市川関係の資料の中で、曽谷教信についての記載部分を知りたい。

『資料の広場　No. 17』（千葉県立中央図書館　1985）によると曽谷教信（そやのりのぶ）（1224-1291）は「（前略）文応元年、若宮の館にて日蓮の法説に接し、改宗の手始めとして法華堂の建立に参与す。後、日礼となり、安国寺を開基す。」とある。中山法華経寺から外れ、松戸の本土寺に関係したためか、中山法華経寺関係の資料には詳細な記事は見られない。市川市関係の資料では、曽谷教信に関する記述として『市川市史　第 2 巻』（市川市　1974）p. 192-194、『市川風土記』p. 81、『中山法華経寺誌』（同朋舎　1981）p. 15、『日蓮宗の成立と展開』（吉川弘文館　1973）p. 41 に確認できる。安国寺に関する記述としては、『市川　市民読本　改訂版』（市川市教育委員会　1979）p. 117 及び p. 321、『千葉県東葛飾郡誌』（千秋社　1988）p. 319、『葛飾八幡と曽谷安国寺』（房総探古会　1932）p. 2 に掲載がある。

また、市川市関係の資料ではないが、『本土寺物語』（本山本土寺　2005）p. 15-39 や『松戸市史　史料編 4』（松戸市立図書館　1985）p. 1-3 には、松戸市本土寺の起立に際し曽谷教信の与力があったこと等が記載されている。

**C10/C0**　椿海について書かれた資料を知りたい。

椿海（つばきのうみ）は、近世まで九十九里平野の北部に存在した。『千葉大百科事典』（千葉日報社　1982）p. 637 によると、ここは、椿湖・椿沼とも称され、かつては下総国海上郡・香取郡・匝瑳郡の三郡にまたがる東西三里・南北一里半の沼であったこと、1670（寛文 10）年に干拓を着手、二年後に稲作を開始し、後に“干潟八万石”と呼ばれたこと等がわかる。

『房総叢書　10』（紀元二千六百年記念房総叢書刊行会　1943）p.1-22 には「椿新田開発記」が記載されている。また、『海上町史　特殊資料編　椿新田関係資料』（海上町役場　1982）は、1287 ﾍﾟｰｼﾞにも及ぶ内容すべてが椿新田に関する資料で構成されており、詳細な事柄まで調べる事ができる。椿新田の古絵図も付録として添付されている。

その他の資料としては、『八日市場市史　下巻』（八日市場市　1987）第 4 章「椿新田の成立」p.112-128、　『干潟町史』（千葉県香取郡干潟町　1975）p.15-21「椿海の形成」、及び第 4 章第 5 節「椿海の開発」、　『東庄町史　上巻』（東庄町　1982）p.489-517「新田開発と村々」、　『東庄町史　下巻』p.988-990「椿湖開発による新村の名付け伝説」、　『旭市史　第 1 巻』（旭市役所　1980）第 2 部第 1 章「近世村の成立と樹海の干拓」等、椿海に面していた各市町村の市史・町史等に多くの資料と記載がある。

なお、上記資料から、新田開発の功労者として「鉄牛禅師（寛永 5（1628）年-元禄 13（1700）年）という人物がいたことが判明。この人物に関しては、『鉄牛』（千葉県内務部　1913）、『郷土の人物』（ポプラ社　2011）p.58 や『千葉県歴史の人物』（暁印書院　1988）p.107-109 で確認できる。また、英語資料『The Iron Cow of Zen』（Charles E.Tuttle　1991）もある。

椿海については、各市のホームページ等にも掲載がある。千葉県ホームページでは「干潟八万石の誕生」として干拓前の「椿の海」と干拓後の「干拓八万石」をわかりやすく図で示している。匝瑳市や旭市のホームページでは椿海に伝わる伝説や現在の「干潟八万石」の写真などが確認できる。また関東農政局のホームページにも「さらに詳しく　椿湖の干拓」という記事がある。

→ＴＯＰＩＣＳ

## 他にもこんな質問ありました（クイック・レファレンスから）

| 分類 | 質問 ⇨ 回答、補足事項、蘊蓄など |
|---|---|
| Eｱｶ | 50 年くらい前に読んだ絵本で、ふうせんが「春が来た」といろいろなところへお知らせして飛んでいく話⇨『こどものとも復刻版　37　ふうせんのおしらせ』（福音館書店　1989） |
| 159 | クドウコウシン著の「さびつく人生より･･･」という本を探している⇨『逆境の中で咲く花は美しい』工藤進英／著（幻冬舎　2017）の第二章「錆びつく人生より」。 |
| 500 | ボールペンのできるまでを知りたい⇨『モノづくりの仕組みがわかる事典　食品・生活・趣味編』（翔泳社　2009） |
| 915.03 | 西園寺宣久（さいおんじのぶひさ）が記した日誌「伊勢参宮海陸之記」の読み方が知りたい⇨『日記文学辞典』より「いせさんぐうかいりくのき」 |

## ＴＯＰＩＣＳ　千葉県　―干拓の歴史－

『日本大百科全書　6』（小学館　1989）p.229 によると、日本における干拓の歴史は古く、最古の記録として『後日本後記』に 849（嘉祥 2）年に行われた干拓を題材にしたと思われる歌があります。1279（弘安 2）年には熊本でやや本格的な干拓が行われたといわれており、江戸時代には現代の技術水準と大差ない、高度な土木技術も用いられていました。

前述の椿海と同じくらい古くから干拓を続けてきた沼が、千葉県には他にふたつあります。それが手賀沼と印旛沼です。手賀沼、印旛沼、椿海の干拓の始まりは江戸時代でした。

手賀沼も印旛沼も、銚子から奥深く入った香取海の湾入でした。手賀沼の干拓は、江戸時代からたび重なる洪水で、被害を被ってきました。明治以降も干拓計画は立てられたもののなかなか進まず、1978（昭和 43）年に農林省の直轄工事が完成し、約 500 ヘクタールの水田が造成され、面積は著しく減少しました。

印旛沼は江戸時代を通じて実際に着工したのは３回でした。手賀沼と同様に印旛沼の干拓も戦後までも持ち越されました。1969（昭和 44）年、水資源公団の開発で沼の中央部に干拓地が造成され、その面積は 2 分の１以下になりました。

参考資料：『日本大百科全書　６』（小学館　1989）、『手賀沼 100 話』（崙書房　1983）
『国史大辞典　1 巻・９巻』（吉川弘文館　1986）